

除雪の省力化 PF
i-Snow通信 Vol.3

プラットフォーム<第3回>を開催しました。

発信元：北海道開発局
道路維持課
機械課

- 平成30年3月28日(水)10:00～、TKP札幌駅カンファレンスセンター3階 3Bルームにて開催



議事(1)H29年度の取組について
議事(2)H30年度 知床峠実証実験(案)について
議事(3)その他

- 北海道大学大学院工学研究院の萩原教授を座長として進行
- 各委員より【各機関の取組の結果や検討項目】を説明(抜粋)

▼(1)建設コンサルタンツ協会 内藤

・完成した3Dマップは、3D道路データ、ICT施工等に活用可能なTINモデル(地形モデル)を作成した。

▼(1)寒地土木研究所 寒地機械技術チーム 高本主任研究員

・周辺探知技術では、ほぼ視程50mというような状況でも70m先の車両を探知できたので来年度以降は走行時の探知性能や車両へのミリ波レーダ搭載方法について検討を行いたい。

▼(1)東日本高速道路株式会社 北海道支社 小松課長代理

・除雪車運転支援システムについてガイダンスシステムの検証を行い最大誤差が17cmであったことから特に問題はなかった。
・投雪作業では雪で意図的に白線が見えなくしデモ走行をさせてみた結果、十分に白線内作業は可能であった。

▼(2)北海道開発局 事業振興部 機械課 中山課長補佐

・衛星測位実態調査、自車位置ガイダンスシステム、投雪装置制御システム、衛星不感地帯補完技術、周辺探知技術、吹雪映像鮮明化技術について検討を行っていく。

▼(3)先進モビリティ株式会社 総務部 渉外・広報担当 松尾

・道の駅「コスモール大樹町」における自動運転バス実証実験では吹雪の日でも問題なく自動で走行することができた。このような吹雪の中で公道で自動で走行したのは日本で初だと思われる。

ディスカッション(抜粋)

- 各議事の説明に対して、座長・各委員によるディスカッション(抜粋)

▼具体的な取組・年度計画は概ね了承。

▼除雪車移動軌跡観測はGPSと準天頂衛星だが今後ガリレオも加わる。周辺環境によって影響を受けるので他のセンサーと連携して精度を維持する必要がある。

▼「ワンストップ窓口」は大変有効だと感じており、様々な実証試験が行われており、非常に素晴らしいことだと思っている。

▼国交省でもオペレータに対するアンケート等、今まで感覚論だったものをデータとして見える化していこうとしている。i-Snowの活用手法として、このようなデータを持ち寄って北海道全体の除雪に関するデータのアーカイブ機能みたいなものをこのプラットフォームでできればと思う。

▼特にi-Snowの商標登録をとられたことは1番感銘を受けた。この名称、活動を広く認知していただくことは非常に大事なことだと思う。

▼準天頂衛星の試験の範囲では北海道で十分精度が高かったことから準天頂衛星の使用はメリットがある。

▼道路走行を目的とした3Dマップの精度と除雪で要求される精度に至るのか最も気になるところ。

▼生産性が向上しないと、この先立ち行かないという最大の課題があり、省力化して生産性をどれだけ上げられるか、そこをもっとクリアにしていける必要がある。

▼今後もぜひ続けていただきながら、より発展的に重要な成果が出せるようにと思っている。

